

高野新之助

一、揺らぐ新学期

(P有)

長い夏休みも終つていよいよ今日から新学期。
先生の机の上は夏休みの宿題でいっぱい。楽しい新学期の勉強がはじまりましたが、動評や道徳教育をめぐる秋の教壇は子供たちにとつても心配な様子です。
ある日、東京の校長先生を一堂に集めた本島教育長は、警官の出動を要請しても公務の執行を行つてほしいと挨拶。これを聞いた総評では、動評の実施を見合わせるよう申し入れましたが、文相は黙香権。
然し、どうにでもなる法律の解釈や血を流すような暴力で全国三千万のツブラな瞳を曇らせないでほしいものです。

一、俺が犯人だ — 女高校生殺し事件

夏休み中の八月二十一日。東京江戸川の小松川高校屋上で同校定時制二年の女学生太田芳江さん(十六才)の絞殺死体が発見された事件は、犯人の方から手紙や電話で挑戦すると云う犯罪史上稀に見る事件に発展して行きました。
然し再三の電話の声をおさめたテープの公開で都民や小松川高校の生徒達の協力があり九月一日、江戸川区の通称朝鮮人部落に住む十八の少年を犯人と断定検挙、ついにこの事件も死体発見以来十二日ぶりに解決しました。
ところがこの犯人も、被害者と同じ学校の生徒だった事からこの日行われた小松川高校の始業式は、異様な空気に包まれていました。

一、空の安全

カメラ・ルポ

全日空機遭難の悪夢もさめやらぬ八月二十七日、またもDC三型旅客機が浜松の自衛隊基地に不時着、またかと思われましたが幸いに乗客は全員無事でした。
こうした相次ぐ事故に航空局もほつては置けず全日空の所有機全部をテストしました。
然し国内の民間所有機は三百機を越すと云うのに、検査官はわずかに二十五人と云う弱体。又設備の点でも全国にはりめぐらされた空のダイヤ十八路線のうち、完備しているのは二・三に止まる状態です。
大草原の中にバラック建の待合室がぼつんとある、文明に背合せの高知のターミナル・ステーション。又北海道の女満別飛行場は、風雪に野ざらしの荒れ方です。
一方大阪と徳島を結ぶ不定期路線は今が書き入れ、折りから徳島の淡路りとあつて昔懐しい水上機がなんと一日六往復もする荒稼ぎぶり。こうした所にも無理な点がある様です。
兎に角レーダーも消防・救難の設備もなく、万事が寺小屋式の航空日本の現状には多くの考えさせられる点がある様です。